

2007(平成19)年6月5日(火)発行

<65年前の1942(昭和17)年6月5日は、ミッドウェーの会戦、日本海軍機動部隊全滅の日>
太平洋上のミッドウェー島攻略に向かった日本海軍機動部隊と、その作戦暗号を解読して待ち受けていたアメリカ海軍との海空戦。日本海軍は航空母艦4隻、兵員3500、飛行機200余機(全機)を失い、致命的な打撃を受けた。これ以後、太平洋戦争は日本の敗戦に一挙に向かう。



チケットなしでも、「当日券」でもご入場できます!!



松元ヒロ・ソロライズ

・6月22日(金)午後7:00~8:20

・会場:サンライズ南相馬 ・入場料:500円

チケット販売所:おおうち書店・北洋舎クリーニング・
平田小児科医院・井上薬局・れすとらんぱびよん
主催:はらまち九条の会
共催:小高九条の会/鹿島九条の会/相馬九条の会
/相双教職員九条の会

同会場で5:00~6:30「相双地区九条の会(リーダー)の情報交換会」も開催

この情報交換会は相双地区の各九条の会、新地(代表目黒美津英氏)・相馬(代表大内秀夫氏)・はらまち(代表平田慶肇氏)・小高(代表佐藤鶴雄氏)・浪江(代表大和田秀文氏)・相双教職員(代表加藤憲男氏)の会の代表と事務局などリーダーの交流会で、相双地区で2回目の会です。

お互いに励まし協力し合って憲法九条を守っていこうとするもので、元気の出る交流会になりそうです。なにか地区が共同でできる、今後の力強い活動のアイデアも生まれそうです。



6月1日に「憲法九条を護ることを求める意見書」を南相馬市議会に提出

6月議会で採択されるか注目ください!

議会を傍聴するのも一方法です!

『九条の会ニュース』24号でお知らせしたように、「憲法第9条を護ることを求める意見書」を、請願者「はらまち九条の会」・「小高九条の会」・「鹿島九条の会」・「相双教職員九条の会」・「映画「日本の青空」上映南相馬実行委員会」として、6月1日、紹介議員櫻井勝延氏で市議会に提出しました。この意見書が6月の議会で採択されれば、南相馬市議会議長名で「内閣総理大臣安倍晋三」「法務大臣長勢甚遠」「衆議院議長河野洋平」「参議院議長羽千景」に送付されます。

みなさんと、6月議会に注目しましょう。

※「相双教職員九条の会」について、「相双地区退職教職員九条の会」とチラシやポスターなども誤って書いてしまいました。お詫びし訂正いたします。

南相馬市議会議員(出身区)・敬称略

(2007.6.1現在・議席番号順)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 太田 淳一(原町区) | 15 土田美恵子(原町区) |
| 2 田中一正(原町区) | 16 寺内安規(鹿島区) |
| 3 白瀬利夫(原町区) | 17 西一信(鹿島区) |
| 4 今村 裕(小高区) | 18 五賀和雄(鹿島区) |
| 5 竹野光雄(小高区) | 19 湊 清一(原町区) |
| 6 櫻井勝延(原町区) | 20 郡 俊彦(鹿島区) |
| 7 小川尚一(原町区) | 21 小林吉久(鹿島区) |
| 8 渡部寛一(小高区) | 22 小林一成(原町区) |
| 9 志賀稔宗(小高区) | 23 小林チイ(原町区) |
| 10 平田武(原町区) | 24 西 鉄治(鹿島区) |
| 11 小林正幸(小高区) | 25 横山元栄(原町区) |
| 13 宝玉義則(原町区) | 26 高野光二(小高区) |
| 14 坂本恒雄(原町区) | 以上25名 |

政治は中央からの命令だけでなく、地方の「草の根」から生まれ、始まります。南相馬市の場合も、市長さんと市議さんたちの考えと行動によって、市民の幸せや生活や安全が左右されます。



○「松元ヒロソロライズ」の時、準備や受付などお手伝いのできる方、お申し出ください。当日午後4時、会場(サンライズ南相馬)にご集合ください。

映画「日本の青空」試写会での挨拶

若松 丈太郎

若松です。こんにちは。

わたしは、相馬高校に勤務していた当時、鈴木安蔵(あざわ)さんが旧制相馬中学の生徒だったときの文章四点を『学友会雑誌』から見つけ、そのほかの文章数点とともに、小文を書いて紹介したことがあります。その後、この会場で行われた「鈴木安蔵先生 生誕百周年記念シンポジウム」で少年期の安蔵さんの文学的環境についてお話しをしたこともありま

す。
また、映画監督亀井文夫(かみいぶんぶ)さんが旧原町生まれであることを知ったとき、彼の映画「上海」や「戦ふ兵隊」を見たかと思いましたが、そのためには自主上映をするしかない、友人たちとともに「亀井文夫の映画をみる会」をつくり、九三年の三月から一〇月まで毎月一回、あわせて八回、十三作品の連続上映と関連講演四回を開催しました。山形国際ドキュメンタリー映画祭が亀井文夫を特集したのは二〇〇一年でしたから、その八年まえのことです。

こんなことをしたことがあるので、今回、映画「日本の青空」上映南相馬実行委員会の代表という役回りをひきうけることになったものと思います。よろしくお願ひいたします。

さて、わたしは一九三五年生まれです。六歳の冬の朝、真珠湾攻撃を伝える大本営発表のラジオ放送を、どこでどんな

しかも、この「日本国憲法」の基礎になった、憲法研究会による「憲法草案要綱」を起草した中心人物が、郷土の先輩、鈴木安蔵さんであることは、わたしたちが大いに誇りとするところで

その、鈴木安蔵さんの業績を中心に据えた映画「日本の青空」が、大沢監督ほかのスタッフ・キャストのみなさんによって、このほど完成しました。

大沢監督、おめでとうございます。

きょうの試写会のこと、四月には、安蔵さんがこよなく愛した故郷・小高と原町で先行上映会が行われることになりました。この試写会と上映会は、南相馬市(なまがま)および同文化振興事業団、また浮舟文化会館のご理解をいただき、共催事業として運営されることになりました。実行委員会を代表して、この席から御礼を申しあげます。

さらには、県内各地、いや、全国各地での上映も続々決定しているとのこと。こんなうれしいことはありません。

ご来臨のみなさま。本日はお忙しいなかをお出ましいただきました。心からの感謝を申しあげます。どうか映画「日本の青空」のことを多くの方々にお伝えなさって、四月の上映会の会場があふれんばかりになりますよう、お勤めいただきます。

原町市が市民に配ったこの小冊子のうしろには、「教育基本法」と「児童憲章」も併せて掲載されています。「教育基本法」は昨年廃止され、旧法となっていました。「日本

ふうに聞いたかを明確に記憶しています。それからあとの三年八カ月あまりのことも、子どもの目でしっかりと見届けました。もちろん、四五年八月十五日正午のラジオ放送を聞いたシチュエーションも記憶しています。

戦後になって思い返してみますと、それは狂気の時代でした。おとなたちはみな狂っていました。もちろん、子どもたちも巻き込まれて、いっしょに狂いました。さいわい、わたしたちは生き残り、正気をとり戻すことができました。

いま、七十歳あまり、こうしてつつがなく生きてこられたのは、いろんなことが重なって幸いしたのでしようが、「日本国憲法」に護られたことがいちばん大きかったと思っています。それは、戦争をしない国に生きているからだけのことではありません。

この、てのひらに収まる六〇ページばかりの小冊子の表紙には「憲法」という文字が記されています。三十五年ほどまえ、旧原町市が市民に配ったものです。ときどき取り出して読んで、そのたびごとに感動しています。「前文」や第二章「戦争の放棄」以外にも、第三章「国民の権利及び義務」さらに第十章「最高法規」などにとりわけ感動します。

どうしてこれらの条文を、いま、古びてしまったと言えるのでしよう。むしろ、全人類の願いを代弁しているものとして、二十一世紀にこそ、よりいっそう尊重されるべき普遍的な条文なのです。誰がつくろうといいものはいいい。そう、わたしは思っています。

国憲法」第十二条は国民に権利の保持責任を訴えています。つまり、権利のうえに安住して何もしていないと、その権利を失ってしまうぞと戒めているのです。わたしたちを護ってくれた「日本国憲法」や「児童憲章」を、こんどは、わたしたちがしっかりと護らねば、多くの大切なものを失うことになるのでしよう。

とりわけ、若い、未来を担う人びとがひとりでも多く、映画「日本の青空」(あざわ)を見て、憲法に関心をもってほしいとねがっています。ぜひ、鑑賞をお勧めくださいますよう、皆様に重ねてお願い申し上げます。

本日は、ありがとうございます。どうぞ、ごゆるりとご鑑賞なさいますよう。(二〇〇七年三月十七日)

*1 鈴木安蔵(一九〇四―一九八三年)旧小高町生まれ。憲法学者。憲法研究会「憲法草案要綱」の起草者。新潟大学名誉教授。著書「憲法の歴史的研究」ほか多数。

*2 亀井文夫(一九〇八―一九八七年)旧原町生まれ。ドキュメンタリー映画作家。映画「戦ふ兵隊」「日本の森」を生きていてよかった「世界は恐怖する」ほか多数。

*3 南相馬市 福島県東部の市。二〇〇六年、原町市、鹿島町、小高町が合併して発足。人口七万二千余。作家植谷雄高、島尾敏雄の本拠地。江戸川柳研究家大田柳村、イタリヤ音楽研究家天野秀延、文芸評論家堂正人などの出生地。相馬野馬追祭が有名。

*4 映画「日本の青空」についての問い合わせ、上映日程など、www.cinema-index.co.jp/sozou/



○去る三月十七日、映画「日本の青空」試写会(会場・小高区浮舟会館)での、上映実行委員長若松丈太郎氏のご挨拶の全文です。大変興味深い内容ですので、ご本人の許可を得て掲載させていただきました。
(戦争と平和を考える時の会発行)『いのちの籠』第6号・二〇〇七年六月二十五日(日)